

# デジタル書道と書道

デジタル書道と書道の融合  
デジタル書道と書道の融合  
デジタル書道と書道の融合

実践!!  
デジタル書道



# マトリクス と 書道

壱

## アナログとデジタルの融合

アナログ芸術とデジタル芸術。  
相反するような言葉であるが、芸術でのアナログ芸術とデジタル  
芸術は融合することができるだろうか。

## デジタル書道協会 四季の詩展

書道を用いたデジタルアート。  
デジタル書道協会は10年以上も書道とデジタル芸術を融合させ  
た作品を手掛けている。  
筆者は、大阪でのデジタル書道協会展覧会取材した。

参

## 実践！！ デジタル書道

デジタル書道協会の取材時、デジタル書道体験を体験した。  
その体験で得た制作方法を紹介しよう。

弐

# アナログとデジタルの融合

**1940年代に初のデジタルコンピュータが誕生して以来、今日の社会はデジタルコンピュータが無くてはならない存在となっている。**

**コンピュータとアナログ芸術の融合は果たして可能なのだろうか。**

近年のデジタルコンピュータ（以降、コンピュータ）の利用は目覚ましい進歩を遂げ、更にインターネットとの組み合わせにより、利用方法やコンピュータ自体の価値が高度化している。

その中で芸術分野でのコンピュータ・インターネットの利用も発展しており、新しい芸術が誕生している。今では一般的な技術となっているコンピュータグラフィック（以降、CG）の発達が、コンピュータにおける芸術分野を押し広げた。そもそも、CGの利用は当初3次元（以降、3D）物体の隠面消去や各種表示技法を含むリアルな画像の生成法の研究が主であった<sup>\*1</sup>。それが今では、コンピュータ支援設計のCAD（computer aided design）システムへの応用、科学計算結果の可視化、医療への応用、バーチャルリアリティ（Virtual Reality）、それを応用した拡張現実（Augmented Reality）、スターウォーズやトイ・ストーリーなどエンターテインメント分野への応用と、1960年代前半にCGが誕生してから一気に発展していき、世の中に浸透していった。そのCGが本格的に芸術分野で応用されはじめたのは、1970年後半からである。実写撮影した映画の一部にCG（CGショット）を用い、迫力のあるシーンを作り上げ、当初人々を魅了したのはいうまでもない。

## フォトタッチと2DCG

フォトタッチは、いわゆる写真編集のことであるが、コンピュータを用いたフォトタッチは以前から存在していた。コンピュータの誕生以前では、フィルム撮影した写真を現像後、組み合わせた写真の一部を上手く

つなぎ合わせ、あり得ない、ありもしない画を作り出していた。

デジタル化がもたらしたフォトタッチの発展の歴史はそう古いものではなく、1980年代に専用ワークステーションが誕生した後、1980年代後半以降には数多くのフォトタッチソフトが開発・販売された。その中で、フォトタッチソフトの市場をほぼ独占したのは、有名なAdobe社のPhotoShopだ<sup>\*2</sup>。

Adobe社のPhotoShopは現在CS6までバージョンアップされ、多くのクリエイターやビジネスユーザに用いられている。そんなPhotoShopの原型の誕生は1987年のことである。原型となる『Display』というソフトは、モノクロのディスプレイにグレースケール画像を表示させることを目的とし、当時ミネソタ大学博士在籍中であったThomas Knoll（トーマス・ノール）氏によって開発された。その後、1990年にAdobe社がライセンスを取得し、Adobe PhotoShop 1.0が発売された。このときの機能はカラー補正やトーンカーブ、レベル補正、キズ等を修正・削除するためのスタンプツールと、フォトタッチソフトとしての最小限の機能を搭載したソフトであった。その後、バージョンを重ねていくにつれてペンツール、パス機能、PhotoShop3.0では現在のフォトタッチソフトの主流となっているレイヤー機能が追加され、編集・操作性が格段に向上した。

今日、写真編集といったらフォトタッチソフトは必要不可欠である。しかし、コンピュータ上での繊細な作画するにはフォトタッチは不向きである。その弱点を補うかのように作画に特化したペイントソフトが開

\*1 Apple II x /II-FX が DTP /デザイン業界で普及し、パソコン上で動作する3DCGソフト（Vision、PLAYMATIONなど）が開発・発売された。ただし、一枚の画像計算に1週間程度かかり、当時は実用的とは言い難いものであった。

\*2 PhotoShopは1990年2月に1.0を発売。当時はMacintosh版のみの販売であった。Windows版の発売は3.0からである。

# デジタル書道協会 四季の詩展 in 大阪

デジタル書道会は拠点を東日本および西日本に分け活動している。

書アートとCGの融合芸術を探索し続けているデジタル書作家協会の展示会を訪れた。

2012年5月23日～5月28日に大阪市中央公会堂にてデジタル書作家協会の「四季の詩」展が開かれた。アナログ芸術である書道にデジタル加工を施し、新しい芸術として華を開かせているデジタル書道会。そこで筆者は大阪に赴き、展示会を拝見した。

大阪で行われたデジタル書作家協会の展示会は大阪市役所近くの中央公会堂にて催された。壁一面に並べられた作品の数々はフルカラーで彩られ、一般的な書道の展示会とは異なった空気である。展示会を拝見した初めの印象は、一般的な書道の展示会の空気ではなく、色とりどりの作品が展示されていることから絵画展と感じてしまうものであった。

しかし、その会場の壁際に展示された作品をよくみると、きちんと書道作品としての赴きがある。

一般的に書道の展示会といえば墨と紙で表現された作品が数多くあるため、それに伴い会場の空気自体も品格が高いような印象となることが多い。

デジタル書道は主に二つの素材を用いて作品を作り上げる。

一つは背景素材。この素材をどのように加工するかによって、作品の雰囲気がからりと変化する。季節にあわせた素材をその季節感合わせた加工が必要になる。夏であれば、暑々しさと爽冷感を持たせ、見た人に涼しさを与えることが可能となる。



もう一つは勿論、書である。デジタル書作家協会では実際に書を書き、デジタルカメラやスキャナーで書デジタル画像化したものを使用する。一般的な書と同様に字が持つ印象を書で表現し、これを用いることが多い。

この2つが巧く重なったとき、デジタル書道としての作品の本質が際立つことになるのだ。

純粹に書道を行っている人間からすれば、デジタル書道は邪道に見えるかもしれない。デジタル加工がされ、書本来の素晴らしさを埋没させているという風に見られるからだろう。

しかし、デジタル書作家協会を創設して14年。歴史を積み重ね、デジタルと書道の調和を模索し続けながら、新しい書道の道を模索し続けている。次はどのような作品が見ることができるのか筆者は楽しみだ。

(2012年5月26日取材)

# 実践！！ デジタル書道

## 1 下準備

前章で紹介したデジタル書道。取材時、デジタル書道の作成方法を体験させて頂いた方法を紹介します。

まず、PC以外に必要なものは以下の通りである。

- ・ Adobe社のPhotoshop (Elementsでも可)
- ・ スキャナまたはデジタルカメラ
- ・ 作品に用いる書
- ・ デザインとして用いる (背景) 素材



採電  
書脳

上図2つの素材を利用して、デジタル書を作成する。どのように配置するのかをここで検討しておくべきだろう。

## 2 加工

作品に用いる書をまずはスキャンしよう。スキャンしたら、Photoshopを用いて加工する。

下準備としての加工は、書だけを切り出し、無駄な部分は削除することだ。

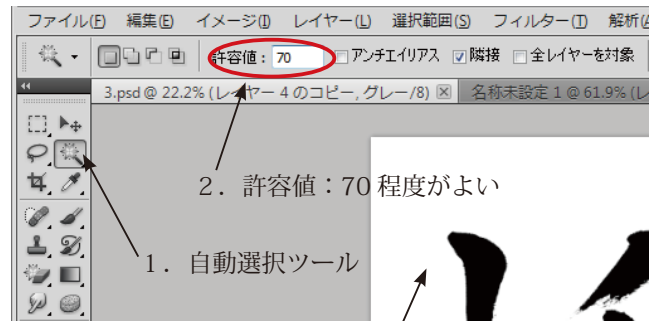
この背景切り出しは少々コツがいる。



スキャンをするときは、次のポイントに気をつけること。

- ・ 半紙等に書かれた文筆は紙の皺が入ってしまうことがある。

この場合は、明るさやコントラストで皺を飛ばす必要がある。筆者がよく用いる方法はお金はかかるが簡単なコンビニのスキャン機能である。皺を飛ばしてスキャンしてくれる。



2. 許容値：70程度が良い

1. 自動選択ツール

3. 白地をクリックし Deleteキー

次は、文字だけの抽出である。自動選択ツールを用いる。許容値は70程度が好ましい。設定を合わせたら、画像の白い部分をクリックする。ただし、画像自体が背景として用いると、選択不可のため注意すること。